

ATENA Forum 挨拶

2026/2/19 長崎

原子力規制委員会の長崎でございます。

この度は、ATENAフォーラムで挨拶をする機会をくださり、誠にありがとうございます。

冒頭、まず申し上げておきたいことがあります。

今年に入り、中部電力株式会社浜岡原子力発電所の新規規制基準適合性審査における基準地震動の策定に係る不正行為が発覚しました。基準地震動の策定過程は、施設の耐震性を確保する上で最も重要な審査項目であることから、不正行為が行われたことは誠に遺憾であり、規制当局と中部電力との間の信頼関係が大きく損なわれましたことはもちろんのこと、被規制者全体に対する影響も大きい深刻な事案であると認識しています。原子力規制委員会といたしましては、中部電力に対して報告徴収を通じて、厳正に対応してまいりますとともに、業界内の取組につきましても強い関心

を持って注視してまいります。

さて、今年のテーマは、「原子力の持続的活用に向けた関係機関の連携強化」と聞いております。今回の不正事案により、原子力に対する信頼が大きく揺らいでいる状況を踏まえて、一言発言させていただきます。

昨年、3年振りに行われた ATENA と原子力規制委員会との意見交換において、私からは、ATENA と原子力規制委員会との信頼関係に関して、具体的にはコミュニケーションの重要性について発言をさせていただきましたが、この場をお借りして、改めてお伝えしたいと思います。

ATENA は 2025 年度の重点活動項目として、「規制当局との信頼関係の構築」、具体的には「規制当局との継続的かつ積極的な意見交換」を挙げています。

古代ローマ帝国の哲学者セネカは「もし君が人に愛されたければ、まず君が人を愛さなければいけない」と説いています。私は信頼関係も同じであると考えています。

基本的に組織同士の関係であれ、個人同士の関係であれ、まずは自分が相手を信頼しないことには相手から信頼されることはないと考えています。これは、ATENA と原子力規制委員会との関係にも当然当てはまります。ATENA と原子力規制委員会はお互いを信頼し合うことが必要であり、ATENA と原子力規制委員会がお互いを信頼し合うためにも、コミュニケーションを重ねていくことを両者が強く意識することが重要であります。だからこそ、ATENA も原子力規制委員会もコミュニケーションをしっかりと進めようという両者が意識している今の状況を維持していくことが大事だと考えています。

一方で、一般社会から ATENA と原子力規制委員会との

関係がどう見られているのかというと、私が直接聞いた範囲ですが、敵同士であるとか、お上と下々、片方のチームが審判も兼ねている状態での試合の相手同士であるとか、まるで信頼関係の構築や、コミュニケーションが不要というか、無駄な相手であるかのように見られていることが多いように思います。そう思われてしまうのは、令和のこの時代においてすら、ATENA と原子力規制委員会が、規制される側と規制する側という対立関係にあると思われているためではないでしょうか。

またたとえば、今 NDF 理事長をされている山名先生が総合編集をされた「原子力安全基盤科学 原子力発電所事故と原子力の安全」という本の付録に、東京電力福島第一原子力発電所事故の直後、「我々は原子力安全・保安院が言う通りに操業してきた。こんな事故が起きたのは規制当局のせいだ」という不満や弁解が東京電力から噴出したという話を聞いたという箇所があります。また、規制側にも、「事業者はすぐに嘘をつくから、言っていることをそのまま信じてはい

けない」という警句があったとも聞きました。

結局、両者は対立する関係なのだから、コミュニケーションなどいらないのでしょうか？

そこで両者のミッションに立ち戻って考えてみたいと思います。ATENAは、原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用しながら、自主的に効果ある安全対策を決定し、原子力事業者の現場への導入を促すことにより、原子力発電所の安全性をさらに高い水準に引き上げることをミッションとして活動しています。

一方、原子力規制委員会は、国民の健康、生命及び財産の保護、環境の保全並びに我が国の安全保障に資するため、原子力利用における安全の確保を図ることをミッションとして活動をしています。

両者のミッションを比べても分かるように、ATENA と原子力規制委員会は規制される側と規制する側という一見対立する関係に見えても、原子力利用における安全の確保について、より高みを目指していくという意味で、両者は同じ志を共有する者同士であると私は考えます。私は、高みに向かって挑戦を続けるという強い志を共有する者同士として、ATENA と原子力規制委員会が、綿密にコミュニケーションを積み重ねることで、お互いを信頼し合えるような関係となることを願っています。

コミュニケーションによる信頼関係の構築の重要性は、ATENA と原子力規制委員会との関係だけにとどまりません。ATENA に加盟されている事業者の皆様におかれましても、ATENA での活動や、原子力規制委員会で定期的に行われている CNO との意見交換会など、いろいろな場を通じて原子力規制委員会との信頼関係を更に高めていただきたい。それこそが、日本における原子力施設の安全性を高めるうえで一番重要な鍵であると私は考えています。

原子力規制委員の杉山委員は、去年のフォーラムにおける挨拶の中で、原子力規制委員会第3期中期目標について触れられました。その中に、「新技術導入等による新たな規制ニーズに対応するため、事業者の取組状況や国内外の新たな動向を的確に捉え、規制基準等の検討・整備を進めること」というものがあります。技術の進展等により、革新軽水炉（規制委員会と言うところの建替原子炉）などの新たな規制ニーズが生まれています。原子力規制委員会にとりましても、これらの規制ニーズに適切に対応していくためには、ATENAを始めとする関係機関との連携、綿密なコミュニケーションが不可欠だと考えておりますし、ご存じのとおり現在進行形で関係機関との意見交換を重ねているところでもあります。

このような重要な局面で「原子力の持続的活用に向けた関係機関の連携強化」がテーマとなっているパネルディスカッションに参加できることも大変ありがたく思っています。私が原子力規制委員会委員となって1年半が経ちました。ディスカッションの際には、これまでの委員としての経験やその

前の McMaster 大学での経験などを踏まえて感じたところをお伝えできればと考えております。

私が参加しますパネルディスカッションでの議論も含め、本日のフォーラムが皆様にとりまして充実したものとなることを期待しております。

以上をもって、私からの挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。